
高槻市国民健康保険加入者における年齢別未受診理由について

○池田睦子¹、寺原美穂子¹、田村義喜¹、臼田 寛²、河野公一²、
渡辺美鈴²、谷本芳美²、甲斐敏晴³、飯田稔³

(高槻市保健福祉部健康づくり推進課¹、
大阪医科大学衛生学・公衆衛生学教室²、高槻市医師会³)

目的 特定健康診査の実施率の向上を目的に、年齢別にみた未受診者の特徴を明らかにし、その対応を検討する。

方法 対象者は40～74歳の国民健康保険加入者で平成21年度の特定健康診査未受診者を層化無作為抽出した2,000人である。方法は、平成22年6月1日～6月30日の間に、郵送法によるアンケート調査を実施した。回収数は1,212（率；60.6%）であった。性、年齢、職業を回答した1,182人を解析対象者とした。未受診に関連する項目を年齢別に分析した。

結果 未受診の理由はの上位5つは「忘れていた 38.0%」、「健康である・メタボリックシンドロームでないから 32.3%」、「通院中 22.8%」、「市からの情報不足 19.2%」、「受ける時間・暇がなかった 15.4%」であった。40歳代、50歳代は忘れていた、受ける時間・暇がなかった、市からの情報不足によるものが多く、60歳代、70歳代は通院中が多かった。

結論 本調査結果から、「かかりつけ医がある」や「通院中」が多いことが明らかになった。受診率の向上には、かかりつけ医に受診勧奨や個別健診の実施を依頼することが必要である。年齢別では40歳代、50歳代の「忘れていた」の理由に対して、忘れることがないよう複数の手段を用いて受診勧奨を促す。60歳以上では「通院中」を重視し、個別健診の受診を働きかけることが受診率向上につながると思える。

キーワード 特定健康診査、国民健康保険加入者、受診率、未受診理由